

令和7年度「広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業（大学版）」成果報告書
ダークツーリズムとピースツーリズムの課題
～広島への負の遺産を事例として～

広島修道大学 商学部
指導教員：富川 久美子
商学部商学科3年次生14名

1. 事業目的

広島には多くの負の遺産があり、ダークツーリズムが行われている。しかし、ダークツーリズムには、被害者や遺族への倫理的な問題や負の遺産を観光資源として商業化するなどの課題がある。一方で広島市では、被爆の痕跡や復興の証に触れることで、平和な世界を考えるピースツーリズムを推進している。このようなダークツーリズムとピースツーリズムの観光資源としての広島における課題を広島県内各地の事例をもとに考察する。

2. 実施内容

ダークツーリズムに関する文献調査をもとに負の遺産の観光化の課題を調べる。次に、ダークツーリズムの調査として、大久野島の毒ガス資料館と遺跡、似島の戦争遺跡、御手洗の花街跡を視察し、関係者や住民に聞き取りをする。ピースツーリズムの調査として、広島市内のツアーに参加し、ピースツーリズム推進の実態と課題について広島市および県内関係者に聞き取りを行う。調査から得た知見をもとに広島のダークツーリズムとピースツーリズムの実態を明らかにし、課題を考察する。調査結果をまとめ、成果を発表する。

【活動内容】

- ① 2025年10月16日（日）：竹原市大久野島訪問
- ② 2025年11月6日（木）：呉市御手洗訪問
- ③ 2025年11月8日（土）：広島市似島訪問
- ④ 2025年11月15日（土）：「被爆電車とたどるヒロシマの歴史 VR でよみがえる記憶の街」参加
- ⑤ 2025年11月26日（水）：広島県観光連盟への聞き取り
- ⑥ 2026年1月12日（月）：「2025年度学生による観光研究発表会」参加
- ⑦ 2026年2月まで：報告書作成・編集

以下、学生からの報告書より抜粋し活動日毎の内容を記載する。

① 竹原市大久野島における毒ガスと歴史に関する聞き取り調査の実施（2025年10月16日）参加人数12名

大久野島にて、ガイドより毒ガスの歴史について説明を受け、毒ガス資料館を視察した。説明の内容は、当時の工場で働く人々や住民への被害、秘密裏にされた工場の歴史、そして現在でも残る被害について等であった。その後、学生は3つのグループに分かれて、戦争遺跡やウサギの状態を調べ、観光客の行動について観察や聞き取りをした。



① 遊郭を中心とした御手洗の歴史観光について調査の実施（2025年11月6日（木））参加人数13名

ガイドのお話を聞きながら呉市御手洗地区を巡った。最初に旧柴屋住宅を訪れ、御手洗地区の大まかな歴史について、説明を受けた。次に、若胡子屋跡ではおよそ100人の遊女がいるかなり大きなお茶屋であったことが分かった。ガイドによる案内が終わると、住民の方と一緒に私たちの質問に答えてくれた。被害者に配慮する以前に被害者がいることすら知らないという現状や、地域の中でも色街の歴史を観光に取り入れることには賛否があることなどが分かった。



② 広島市似島 視察・聞き取り調査（2025年11月8日）参加人数4名

ガイドの二人から似島の歴史について説明を受けた。最初に後藤新平像を訪れ、似島の大まかな歴史についての説明を受け、次に旧陸軍運輸馬匹検疫所焼却炉を訪れた。原子爆弾投下後に似島に約一万人の被爆者が運ばれ、多くの被爆者は命を落とし、火葬や埋葬されたこと、平成2年に発掘作業が進んだことなどの説明を受けた。しかし、広島市が似島を観光資源として考えておらず、補助も出ないため、負の歴史を巡るツアーのガイドをいつまで続けられるか分からないとのことであった。



③ 「被爆電車とたどるヒロシマの歴史 VR でよみがえる記憶の街」参加（2025年11月15日）参加人数4名

路面電車を使用したガイドツアーに参加した。10時に広島駅から千田車庫に向かった後、貸し切り電車で袋町、白神社へ行き、歩いて平和記念公園へ行った。VR体験では、映像が4回に分けて放送され、ガイドの説明を受けながらその映像と同じ場所に行った。最後に、ガイドやツアー参加者に簡単な質問をし、広島のピースツーリズム役割や今後の課題を確認した。



④ 広島県観光連盟への聞き取り・調査活動（2025年11月26日）参加人数5名

広島県観光連盟に訪問し、①県としてのダークツーリズムの位置づけ、②現状と課題、③観光客への対応、④関連スポットとの連携、⑤今後の方向性の5点について質問をした。その結果、①市が行っているので、位置づけはしていない。②課題はガイドと遺族への配慮、③ガイドやレンタサイクルの取り組み、④HP作成、⑤周辺整備や宿泊施設の整備など。といった回答を得た。今後の方向性として、ダークツーリズムを政策の柱とすることには引き続き慎重な姿勢を示しつつも、平和に関心を持つ来訪者に向けた受入環境の整備が重要であるとのことであった。



⑤ 「2025年度学生による観光研究発表会」参加（2026年1月12日）

県立広島大学が運営する「サテライトキャンパスひろしま」（広島市中区）において、「2025年度学生による観光研究発表会」が開催された。富川ゼミは、「ピースツーリズムとダークツーリズムの課題～広島市の負の遺産を事例として～」について発表を行い、竹原市大久野島、呉市御手洗、広島市似島の3地域における現地調査に加



え、「被ばく電車とたどるヒロシマの歴史イベント」への参加を通じた学びについて報告した。広島ピースツーリズムとダークツーリズムの明らかになった課題として、「ガイド不足、語りにくい歴史の扱い、観光客の関心の偏り」などがあげられ、両ツーリズムを持続可能にするには「負の歴史をいかに論理的かつ持続的に伝えるか」という観点から、ガイドの育成、語り部継承、体験型学習の充実など、「教育と観光を両立させる取り組み」の必要性を報告した。

⑥ 報告書作成・編集

文献研究から調査報告、考察などこれまで行ってきた事業の活動を報告書にまとめて編集作業を行った。報告書が2月に完成した。

3. 事業実施による成果・効果

ダークツーリズムは「死や苦しみと結びついた場所を訪れる」ため、広島県内の3地域でも、ガイド不足や語りにくい歴史の扱い、観光客の関心の偏りといった形で課題が明らかになった。これは、負の遺産を観光資源とする際に、地域の思いと観光客の期待が必ずしも一致しないという、現状が確認された。一方、広島市のピースツーリズムは、被爆の痕跡や復興の歩みを通して平和を考える観光として整備されているが、情報発信の不足、観光の集中、語り部の継承、多言語対応など、観光資源としての課題が依然として存在していた。これは、平和を伝える観光であっても、訪問者が深く学び、広く参加できる仕組みを整えることが課題である。本研究を通して、広島のだークツーリズムとピースツーリズムには、どちらも「負の歴史をどう大切に伝えていくか」という共通の課題があることが分かった。ダークツーリズムでは、ガイド不足や語りにくい歴史の扱いなど、伝える側の体制が十分ではなく、ピースツーリズムでも、情報発信や語り部の継承、多言語対応など、学びを深めるための環境づくりに課題が残っていた。これらを踏まえると、歴史をただ見てもらうだけでなく、当時の人々の思いに寄り添いながら未来へつなげていく工夫が必要だといえる。ガイドの育成や語り部の継承、遺産の保存、体験型の学びの充実など、観光と学びを両立させる取り組みが今後ますます大切になると考えた。

以上の調査結果をもとにした考察が事業による成果である。このように学生は、調査のために県内の様々な観光施設や関連機関を訪問し、住民や関係者への聞き取り、意見交換をとおして県内の観光の実情や観光における課題などを深く理解することとなり、非常に学習効果が高かった。特に、ダークおよびピース・ツーリズムに関わる民間や、公的機関の活動も学ぶことができた。県内で就職希望をする学生が、今回の経験を活かして広島県内で活躍し、社会貢献に繋げることが期待できる。

